
[成果情報名] トマト苗トラップによるトマト黄化葉巻病の感染時期の解明

[要約] トマト苗をトラップとして用いることで、トマト黄化葉巻病と病原ウイルスを保毒した媒介虫のモニタリングが可能である。トラップ苗で捕獲された保毒虫とトラップ苗の発病の消長から推定されるトマト黄化葉巻病の主要な感染時期は8月中旬から10月下旬である。

[キーワード] トマト黄化葉巻病、保毒虫、発生病消長、トマト苗トラップ、モニタリング

[担当部署] 病害虫部・虫害チーム

[連絡先] 092-924-2938

[対象作物] 野菜

[専門項目] 病害虫

[成果分類] 生理生態

[背景・ねらい]

本県の促成栽培トマトでは、平成11年からシルバーリーフコナジラミが媒介するトマト黄化葉巻病による被害が大きく、効果の高い防除対策を確立することが急務である。

そこで、病原ウイルスを保毒した媒介虫（以下、保毒虫）とトマト黄化葉巻病のモニタリング方法を開発し、トマト黄化葉巻病の主要な感染時期を明らかにする。

（要望機関名：病害虫防除所、(H13)）

[成果の内容・特徴]

1．トマト黄化葉巻病の発生地に健全なトマト苗（5～6葉期）をトラップとして、7～14日間暴露・回収することで、保毒虫とトマト黄化葉巻病の発生モニタリングが可能である（図1、2）。

2．媒介虫の発生は5月上旬～12月上旬に認められるが、保毒虫の発生は、概ね8月中旬～10月下旬に限定される（図2）。

3．トマト黄化葉巻病の発生時期も、保毒虫と同様に、概ね8月中旬～10月下旬に限定される（図1、2）

[成果の活用面・留意点]

1．促成栽培トマトにおけるトマト黄化葉巻病に対する防除対策に活用できる。本県の促成栽培トマトでは、育苗期～10月下旬の期間がトマト黄化葉巻病に最も感染しやすくなるため、この時期に重点を置いた防除体系を組み立てる。

2．トマト苗トラップは発生予察に利用できる。その際、トマト苗はトマト黄化葉巻病の発生していない地域か、媒介虫が侵入できない隔離施設で育成する。

[具体的データ]

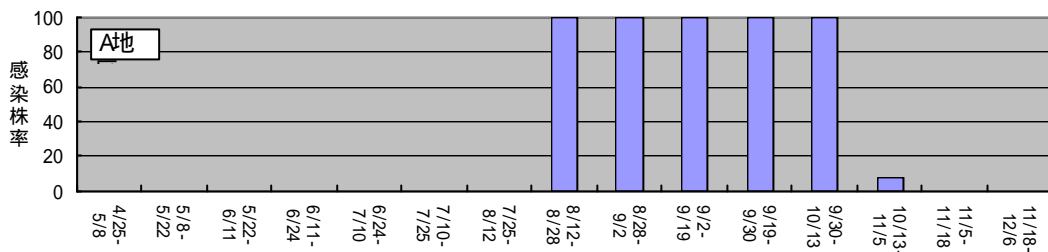


図1 トマトのトラップ苗におけるトマ黄化葉巻病の発生消長 (平成14年)

注) 1回につきトラップ苗12株を供試し、回収した苗の感染の有無をPCR法で検定し

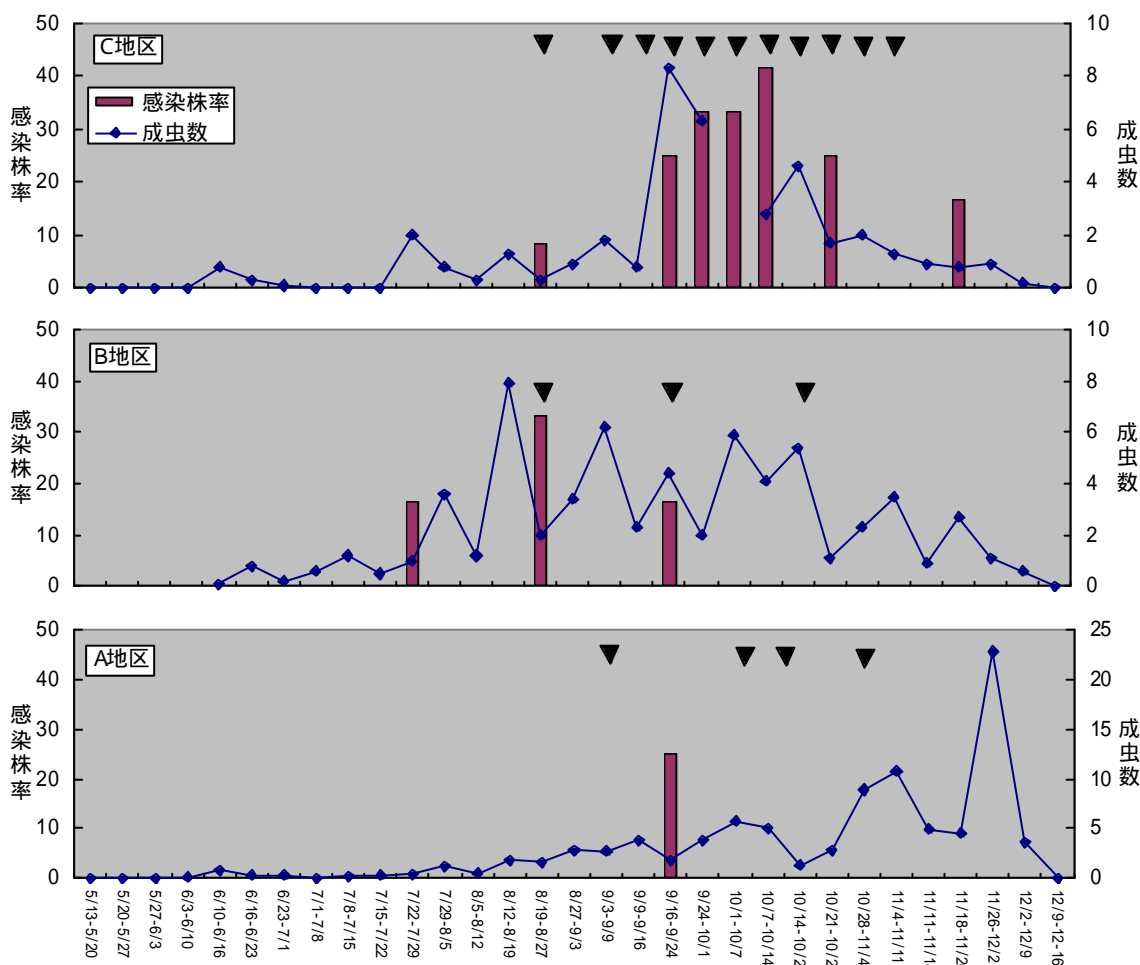


図2 トマトのトラップ苗におけるトマ黄化葉巻病と媒介虫の発生消長 (平成15年)

- 注) 1. 1回につきトラップ苗12株を供試し、回収した苗の感染の有無をPCR法で検定
 2. トラップ苗の回収時に媒介虫を計数後、採集し、PCR法で保毒の有無を調べ
 3. は保毒虫が検出されたことを示す。

[その他]

研究課題名：媒介虫の発生生態の解明と被害回避のためのモニタリング技術の開発
 予算区分：国庫助成（先端技術等地域実用化）
 研究期間：平成15年度(平成13～15年度)
 研究担当者：嶽本弘之、山村裕一郎